

大災害から身を守る



平成28年熊本地震では、最大震度7、マグニチュード7.3を記録し、死者50人以上（関連死を含む）、建物の被害は2万棟以上、震度1以上の揺れも千回を超え、尊い多くの人命や財産が失われました。松浦市においても、熊本を震源とする地震の影響により、4月16日には震度4を計測しました。この地震による大きな被害は確認されておりませんが、これから先、雨の多い季節を迎え風水害等の災害が懸念される時期に入ります。いざという時に備えて、日ごろから防災への意識を高め、災害に対する対策を行いましょ。

◆地震に備えて

大雨、洪水、暴風のように十分な避難行動時間をとれないのが地震です。地震が起きたときには慌てず、身を守る適切な行動をとるよう心掛けましょ。

○地震が起きたら

①身の安全を第一に

揺れを感じたら丈夫な机やテーブルの下に身を隠し、揺れが収まるのを待ちましょ。

②火の始末を

落ち着いて、使用中の調理器具や暖房器具などの火を消して始末しましょ。万一、火災が発生したら、初期消火に努めましょ。

③戸を開けて脱出口の確保を

揺れによる影響で建物が歪み、出入口が開かなくなることがあります。玄関などの戸を開けて出口を確保しましょ。

④正しい情報の入手を

テレビやラジオ、防災行政無線、携帯電話の緊急速報メール等から正しい情報を入手し、冷静に行動しましょ。

⑤避難する時

外に避難する際にはガスの元栓を閉め、ブレーカーを切って建物から出るようしましょ。

避難する時は狭い路地や、ブロック塀、自動販売機などの倒れやすいものには近づかないようしましょ。

⑥街にいるときは

ブロック塀や自動販売機など倒れてきそうなものから離れましょ。また看板、割れた窓ガラスの破片などが落下することがあるので建物の周囲から離れましょ。

津波に注意を！

地震による影響で津波が発生することがあります。強い地震が発生した時や、津波注意報が発令された時は、海岸周辺には近づかず、高い場所に避難しましょ。



◆日ごろからの備え

○家族・地域で防災対策

災害が発生した時の家族の役割分担、避難場所の確認、連絡方法などについて話し合い、事前に決めておきましょう。また、地域のコミュニティケーションを大切に情報交換をしましょ。

○家の中の防護対策

大地震が発生したときには「家具は必ず倒れるもの」と考えて、防護対策を講じておく必要があります。

寝室や子ども部屋などには、できるだけ家具を置かないようにするなど、転倒防止対策をとりましょ。また、家具が転倒しない



《写真》

- ①・② 熊本市内の被害状況
- ③ 熊本県益城町の被害状況
- ④ 熊本市内での給水支援活動
- ⑤ 救援物資の運搬



⑤



④



③

ように、壁に固定するなど
の対策をしておきましょう。
家具のほかにも、窓ガラス
やペンダント式の照明、テ
レビ、電子レンジ・オーブ
ンなど、家の中には危険な
ものがたくさんあります。地
震発生時、それぞれの部屋
にどのような危険があるの
か考えて、対策をしておき
ましょう。

○非常時の持出品を準備

大災害が発生したときには、電気やガス、水道、通信などのライフラインが止まってしまふ可能性がります。ライフラインが止まっても自力で生活できるよう、普段から飲料水や非常食などを備蓄しておくことが大切です。
また、自宅が被災したときは、安全な場所に避難し、そこで避難生活を送ることがあります。非常時に慌てることのないよう、持出品は日ごろから準備しておき、いつでも持ち出せるようにしましょう。

避難する際に持ち出すもの（例）

- 《貴重品》
 - 現金、預金通帳など
 - 印鑑、保険証、運転免許証など
- 《衣類・洗面道具》
 - 下着、靴下、防寒着
 - タオル・石鹸・歯みがき用品
 - 紙おむつなど
- 《水・食糧》
 - 飲料水・非常食
- 《その他》
 - 懐中電灯
 - 携帯ラジオ
 - 乾電池（充電器）
 - 軍手
 - 筆記用具
 - ノート
 - 雨具
 - 救急セット（薬）



◆風水害に備えて

近年の気象状況は異常気象と言われるように、大型化した台風や突発的なゲリラ豪雨による被害が全国で発生しています。

台風や大雨は、あらかじめニュースなどで情報入手することが出来ます。これらの気象情報を利用して早めに対策をとりましょう。

○台風がくる前に

- ・家の各所を点検して、修理や補強をしておく。
- ・庭やベランダにある風で飛びそうな物は固定するか家の中に取り入れる。
- ・側溝や排水溝を清掃し、家の周りの排水をよくする。
- ・停電に備えて懐中電灯やラジオを用意しておく。
- ・非常用持出品を出しやすい場所に準備しておく。
- ・最寄りの避難所、避難経路を確認しておく。

※避難所一覧は、4〜5ページをご覧ください。

（災害種別による利用可能な避難所は、市政嘱託員へ避難所一覧を配布しておりますので、ご確認ください。）

○台風がきたら

- ・テレビやラジオなどの台風、大雨に関する情報に注意する。
- ・外出は避けるようにする。特に、増水した河川には近づかない。
- ・懐中電灯や非常用持出品をすぐ出せるようにしておく。

○避難するときは

- ・ひもでしめられる運動靴を脱げないように履き、持ち物は最小限にして背中に背負うなどして両手を使えるようにしておきましょう。
- ・水の下には何があるかわかりません。溝に落ちたり、マンホールや石などにつまづいたりしないように、安全を確かめながら歩きましょう。

人は災害を止めることはできませんが、被害を軽減することは可能です。万が一に備えて日ごろから災害に対する備えに努めましょう。